「地域独自の予算」の見直しに注目

3月議会総括質疑に6人登壇

3月定例議会が2月27日からスタートしました。今定例議会は小菅市長が選挙公約などを整理して所信を明らかにする重要な議会です。初日は市長が提案理由の説明をしたあと、安田佳世議員から上野公悦議員まで６議員が登壇し、提出議案などに関する総括質疑を行いました。イラストはその６議員です。

総括質疑で注目したことの１つは、多世代交流プレイス運営事業です。市長選で、小菅市長は「子どもセンターを13区にもつくる」と公約していましたが、子どもの居場所機能だけでなく、子どもから高齢者までの世代が集う「世代間交流の場としての機能を備えた地域活性化の拠点」にするとし、名称も「多世代交流プレイス」としました。

私は、子どもの健全な成長のためには異年齢集団との交流は大事なことの１つだと思っていますが、この日の質疑を聴いていると、そこに焦点をあてたというよりも、「多世代の様々な集団が入ることができて、そのなかで子どもとも交流できるようにする」というふうに位置づけられ、主眼は「地域活性化の拠点」に変化したなと受け止めました。委員会審査では、子どもを真ん中にした子どもセンターの在り方の議論を深めてもらいたいです。そして、「地域活性化の拠点」となると、現在のコミュニティプラザの機能とも重なります。この点、どう整理するのでしょうか。

注目したことの２つ目は、前市政の「地域独自の予算」の見直しです。市長は、これまでの制度について、「地域主体の多様な取組の実現に一定の役割を果たしたものの、収益性のない取組では自主財源の確保が困難などの課題がある」とし、新年度に見直すことを表明しました。でも検討課題の先頭に、「収益性のない取組」を出されることには違和感があります。先日、地域紙で話題となった中ノ俣のミニ新聞「まめでやったけぇ」のような収益性のない事業にも地域振興に役立つものがたくさんあります。それと、事業の継続性です。新年度に計上された事業には、大島区細越の「薬師など地域の宝を生かした事業」のように今後何年も継続されるであろう事業がけっこうあります。質疑を聴いていて、こうした継続性のあるものが新年度とその翌年くらいで終わってしまいそうだと心配になりました。「継続事業は1年、2年ではなく、もっと長期に及ぶこともあるし、そこは配慮する」といった明言が欲しかったですね。

これらについては私も総務常任委員会審査で質問します。

吉川と三和の巣で新たな展開

吉川区と三和区のコウノトリの巣で新たな展開です。

まず吉川区ですが、昨年崩れてしまった巣のつくり直しをこれまでのペア（個体番号J0250のメスとJ0287のオス）が同じ電柱の上部で行い、ほぼ完成させました。このペアは2月から交尾を繰り返していましたが、3月2日よりペアのうち1羽が必ず巣の上にいるようになりました。産卵が始まったのだと思います。時々、巣に座っていますが、すべての卵（4個前後か）を産み終えると本格的な抱卵体制に入ります。写真左は吉川の巣。

三和区の巣でも新たな展開が始まっています。昨年、1羽のヒナを育てたペアは、まずメスがいなくなり、2月下旬までオスが巣を守り続けましたが、数羽のコウノトリの激しい攻防で巣を守り切れませんでした。

新たに巣上で活動を開始したのは個体番号J0682のメス（福井県鯖江市生まれ、今年の5月で3歳）とJ0645のオス（兵庫県豊岡市生まれ、今年の4月で3歳）です。両者はペアとなり、すでに交尾も開始しました。3月下旬には抱卵を開始し、4月下旬にはヒナが誕生することでしょう。写真右は三和の巣です。

【キクザキイチゲ】キンポウゲ科の多年草。漢字で「菊咲一華」と書きます。私の地元の代石神社の一角に薄紫色の花を咲かせる群落があります。私が知る限り、ここが一番早く花を咲かせる場所です。先週紹介したマンサクとともに春を知らせてくれる野の花です。花言葉は「静かな瞳」「追 憶」など。写真は３月2日、撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2242 2026.3.8

発行・編集 日本共産党上越市議　橋爪のりかず
Tel 025-548-3627
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

ブログ「ホーセの見てある記」は←こちら

橋爪法一　検索

春よ来い

第八八九回　カタカタカタ

カタカタカタ……。今年はコウノトリが鳴らすこの音を何十回も聞いています。そのせいか、この音の響きがいつも耳に残っています。

先日は三和区のコウノトリの巣の上や近くの田んぼの雪の上でこのカタカタカタを数回聞きました。

この日は巣がある電柱に京都府京丹後市生まれの個体番号Ｊ０２３９のオスがいて、他の二羽が巣の上に飛び移ろうとしていました。その時に巣の上のオスがそれらのコウノトリに向かって激しくロばしを動かしてカタカタカタとやっていました。カタカタカタとやった後は首を後ろにカクンと折り曲げています。私は三百㍍ほど離れていたところでカメラを構えていたのですが、こうした激しい動きがはっきり見えました。おそらく、「ここは俺の巣だ。おまえの来るところではないぞ」と威嚇（いかく）していたのだと思います。

巣の上での攻防がひと段落したところで、今度は三羽とも雪原に下り、雪の上をゆっくりと歩き始めました。この日は凍み渡りができるほど雪が固くなっていました。人間が埋まらないくらい固いのですから、体重五㌔ほどのコウノトリが埋まることはありません。

コウノトリたちの歩く姿を見ていると、三羽のうち昨年からこの地にいる個体番号Ｊ０２３９のオスは他の二羽と比べてひと回り大きく見えます。他の二羽がオスの後に続きました。そのうち、一羽がオスのすぐ後ろからロばしをカタカタカタと鳴らしました。それを受けて前を歩くオスもカタカタカタ……。今度は仲直りかと思ったのですが、そうではありませんでした。オスのロばしの動きはまた激しくなり、「ここはおまえの来るところではない。帰れ」そんなふうにロばしを鳴らしていたのです。

言うまでもなく、吉川区でもコウノトリのカタカタカタを聞いています。

二月の中、下旬でした。これまで二年間、吉川区でヒナたちを育ててきた個体番号Ｊ０２５０のメスとＪ０２８７のオス（いずれも兵庫県豊岡市生まれ）のペアの交尾が巣の上で始まっていました。

これまで数十回の交尾を見てきたことから、交尾前の何となく落ち着かないペアの雰囲気は私にもわかるようになりました。メスがオスの体にロばしでそっと触れる、オスがメスの背中に目を向ける等の行為は愛情にあふれています。

オスがメスの体に乗って交尾が始まると、メスはしっかりと体をかためてオスを受け入れます。行為が始まって終わるまで約二十秒、この間、オスはよほど気持ちがいいのか、ロばしを何度も左右に振って喜びを表現しています。そしてことが終わってオスが下りると、メスがカタカタカタとやり首を後ろにそらすのです。このときのカタカタカタは愛の最高の表現です。

コウノトリのカタカタカタを初めて聞いたのは数年前のことでした。巣の上のコウノトリを観察していた時、遠くからカタカタカタという音が聞こえ、じきに一羽のコウノトリが巣におり立ちました。このときのカタカタカタは「これから行くよ」という合図だったのでしょう。

このカタカタカタは「クラッタリング」と呼びます。コウノトリは生まれたばかりの頃は「ピューピュー」と鳴きますが、成長すると通信手段はこのクラッタリングだけになります。クラッタリングは、コウノトリ同士の挨拶、連絡、他のコウノトリへの威嚇、夫婦、恋人同士の愛情表現の際、欠かせないものです。

この上越の地ではいま、コウノトリが繁殖期を迎え、様々なドラマがはじまっています。耳をすませば……、ほら、カタカタカタという音が聞こえてきませんか。

雨のなかでも美しかった

…灯の回廊…

今年も２月21日、28日、名立、三和、高士、牧、浦川原、安塚、大島の各区で雪と光の祭典、「灯の回廊」が取り組まれました。

私は都合で28日しか参加できませんでしたが、小雨降るなかでも雪原や雪の壁に美しく輝く灯を楽しむことができました。

いつもうれしく思うのはどこへいっても温かいもてなしがあり、楽しく交流できることです。

ほくほく大島駅の会場では、若いお母さんと子どもなどが駅舎から駐車場や近くの高台に広がる灯の世界を楽しんでいました。また、菖蒲の飯田邸では美味しいそばなどを求めて列ができました。

安塚の船倉では、訪れた人たちに炭火で焼いた餅やしる粉などがふるまわれました。ここには私のことをご存じの人たちがいて、「春よ来い」が掲載されたレポートを渡すと「凍みわたり」の話で盛り上がりました。

浦川原の月影の郷会場、今年も雪原に広がる灯が見事でした。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。１時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は１時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だとのことです。

	2月25日（水）	3月4日（水）
上越消防署	０．０５７	０．０５３
上越南消防署	０．０４０	０．０４７
新井消防署	０．０５３	０．０５０
頸北消防署	０．０５７	０．０５７
頸南消防署	０．０６７	０．０６０
東頸消防署	０．０５３	０．０５７
名立分遣所	０．０６３	０．０６０
高士分遣所	０．０５３	０．０５７